

2018年度 精神看護学セミナー 第1弾 レポート

平成30年11月3日(土)に「自閉症スペクトラム障害患者さんと家族へのアプローチ」をテーマに2名のシンポジストをお招きして開催いたしました。

東京都立小児総合医療センター精神看護専門看護師の遠山梓さんから「ASD 児とその家族への関わり」というテーマで、自閉症スペクトラム障害を抱えている子どもへの関わりの実際や、家族への支援について具体的な内容をお話していただきました。福島県立医科大学看護学部の佐藤利憲先生からは「発達障害への支援～ペアレント・トレーニング」というテーマで、問題と捉えてしまう行動をどのように捉えるか、またペアレント・トレーニングについてお話していただきました。

シンポジウムの後に行なわれたディスカッションでは、発達障害のある方への関わりの方の難しさを感じている参加者も多く、抱えている事例を通しての質問などが積極的に行なわれていました。

それぞれの施設においても関心が向けられているテーマであったため、60名の方々にご参加していただくことができました。参加した方々から、自閉症スペクトラム障害の特性がよく理解でき、実際の関わりや家族への関わりを学べたり、ペアレント・トレーニングで大切にしていることなどが理解できたりしたことで、すぐに実践したくなったという声を多くいただきました。

今回は精神看護学セミナー終了後、セルフケア事例検討会を行なう、セミナーと事例検討会同日開催という初の試みでした。看護学セミナーのあとセルフケア事例検討会に引き続き参加していただいた方が多く、知識と事例を結びつけて学ぶことができ、参加した皆さんのエネルギーになる1日となりました。



第 47 回 セルフケア事例検討会 レポート

平成 30 年 11 月 3 日に福島県立矢吹病院さんから事例を提供していただき、医大看護学部にて事例検討会を開催しました。今回は午前中に看護学セミナー「自閉症スペクトラム障害患者へと家族へのアプローチ」を開催したこともあり、参加者は 50 名と普段よりも多い人数になりましたが、その分様々な意見をいただくことができました。

午前中の看護学セミナーを受けて、矢吹病院さんから発達的な問題を抱えている事例を提供していただきました。事例は知的障害のある患者さんで、要求が多く、感情コントロールは苦手なため、些細なことで他害行為が見られてしまい、スタッフが対応の難しさを感じているケースでした。ディスカッションを進めていく中で患者さんの抱えている障害を理解できていない対応などにも気がつくことができ、健康的な部分に目をむけ、患者さん本人の能力にあった目標設定の重要性、さらにどのようにスタッフが関わるかなどについてみんなで考えることができました。

それぞれの施設においても同様な事例が多く対応の難しさを共感でき、参加した皆さんが抱えている事例を振り返ることができる時間となりました。

今回は、看護学セミナーと同日開催という初の試みでした。セミナーでの知識を活かし事例を考えることができ、学び多い一日となりました。

